



J R 連 合 NEWS

J R 産 業 に 集 う
す べ て の 仲 間 の
J R 連 合 へ の
総 結 集 を !!

2023 年 度

N o . 2 2

2 0 2 3 年 9 月 6 日

日 本 鉄 道 労 働 組 合 連 合 会

J R 貨 物 連 合 第 1 4 回 定 期 大 会

今、置かれている現状を認識し、新たなステージに向け、組合員一人ひとりが切磋琢磨して、各種課題の取り組み強化を推し進めていこう！

J R 貨物連合は9月2日、「J R 西 労 組 広 島 地 本 会 議 室」において第 14 回定期大会を開催し、向こう1年間の運動方針を決定した。また、これまでJ R 貨物連合運動を先頭に立って牽引してきた大杉正美会長が勇退し、新たに辻村和裕会長（J R 連合副会長・貨物鉄産労中央執行委員長）を選出するなど、新役員体制を確立した。

挨拶した大杉会長は、コロナ禍や物価高騰下にあっても、J R 貨物連合が加盟単組やJ R 連合と連携して取り組んだ政策活動がJ R 貨物の経営を支えてきた事を訴えとともに、「安全最優先の取り組み」「J R 貨物の経営状況」「組織強化・拡大」「2024 春季生活闘争」に対して所信を述べ、J R 貨物連合運動の一層の発展を呼び掛けた。



退任した大杉前会長(左)と辻村新会長(右)

J R 連合からは、石川敏也産業政策局長と住吉一家労働政策局長が出席し、連帯のあいさつを行うとともに、最近の物流政策にかかる取り組みの進捗状況を報告した。

議事では、執行部から提案された2023年度運動方針(案)等の議案に対して多くの代議員から「新幹線による物流について」「定年延長の課題について」などの意見が寄せられ、執行部の答弁を経て新年度の運動方針等が決定した。

**安全ディスカッションで職場の問題点を共有
現場目線の課題提起で事故の芽を撲滅していこう！**

大会後は、参加者全員で「第10回安全ディスカッション」を開催し、安全に関する職場の課題や解決策等を議論した。



真剣な議論が展開された安全ディスカッション

安全を担保しながらモーダルシフトを推進するため、極端に不足している要員の確保、積み替えステーションの追加・拡大、貨物ターミナルでの滞留対策等、積極的に建設的な議論が展開された。特にコンテナの3段積みに対しては、大きな課題認識が示され、安全が確保できるフォークリフトの開発・導入が必須であることなどが訴えられた。

安全を担保しながらモーダルシフトを推進するため、極端に不足している要員の確保、積み替えステーションの追加・拡大、貨物ターミナルでの滞留対策等、積極的に建設的な議論が展開された。特にコンテナの3段積みに対しては、大きな課題認識が示され、安全が確保できるフォークリフトの開発・導入が必須であることなどが訴えられた。